

精神保健福祉ソーシャルワーク実習

[実習] 第3～4学年 後期～前期 選択 5単位

《履修上の留意事項》この科目は、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク実習」に該当する。
この科目を履修する者は、合わせて「精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導 および 」の履修も必要となるため、履修漏れに気を付けること。

《担当者名》 鈴木 和 suzuki_w@hoku-iryu-u.ac.jp 橋本 菊次郎 奥田 かおり 向谷地 生良（客員）

【概要】

現場での配属実習を通して、精神保健福祉領域のソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として必要な知識・援助技術・価値態度等を習得する。

【学修目標】

- 1、精神保健福祉援助、障害者等の相談援助に係わる専門知識・技術について実践的に理解し、体得する。
- 2、精神障害者の現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について理解する。
- 3、精神保健福祉士として求められている資質、技能、倫理等を理解し、対応できる能力を習得する。
- 4、地域生活支援と関連分野の専門職との連携について実践的に理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第1週目			
	実習（3学年後期） （障害者福祉サービス機関） （橋本グループ）	利用者、家族等との基本的なコミュニケーションを図り、支援関係の形成を理解する 施設の経営や管理運営の実際について学ぶ	橋本
	実習（3学年後期） （障害者福祉サービス機関） （奥田グループ）	利用者、家族等との基本的なコミュニケーションを図り、支援関係の形成を理解する 施設の経営や管理運営の実際について学ぶ	奥田
	実習（3学年後期） （障害者福祉サービス機関） （鈴木グループ）	利用者、家族等との基本的なコミュニケーションを図り、支援関係の形成を理解する 施設の経営や管理運営の実際について学ぶ	鈴木 向谷地
第2週目			
	実習（3学年後期） （障害者福祉サービス機関） （橋本グループ）	基本的知識、実践の技術・技能を習得する （権利擁護、多職種連携、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用等）	橋本
	実習（3学年後期） （障害者福祉サービス機関） （奥田グループ）	基本的知識、実践の技術・技能を習得する （権利擁護、多職種連携、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用等）	奥田
	実習（3学年後期） （障害者福祉サービス機関） （鈴木グループ）	基本的知識、実践の技術・技能を習得する （権利擁護、多職種連携、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用等）	鈴木 向谷地
第3週目			
	実習（4学年前期） （医療機関） （橋本グループ）	患者および家族等との基本的なコミュニケーションを図り、支援関係の形成について理解する。	橋本
	実習（4学年前期） （医療機関） （奥田グループ）	患者および家族等との基本的なコミュニケーションを図り、支援関係の形成について理解する。	奥田
	実習（4学年前期） （医療機関） （鈴木グループ）	患者および家族等との基本的なコミュニケーションを図り、支援関係の形成について理解する。	鈴木 向谷地
第4週目			
	実習（4学年前期） （医療機関） （橋本グループ）	基本的知識、実践技術・技能を習得する。 （患者、家族への相談援助、入・退院支援、通院援助）	橋本

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習 (4学年前期) (医療機関) (奥田グループ)	基本的知識、実践技術・技能を習得する。 (患者、家族への相談援助、入・退院支援、通院援助)	奥田
	実習 (4学年前期) (医療機関) (鈴木グループ)	基本的知識、実践技術・技能を習得する。 (患者、家族への相談援助、入・退院支援、通院援助)	鈴木 向谷地
第5週目			
	実習 (4学年前期) (医療機関) (橋本グループ)	基本的知識、実践技術・技能を習得する。 (多職種連携、地域の関係機関との連携、個別支援)	橋本
	実習 (4学年前期) (医療機関) (奥田グループ)	基本的知識、実践技術・技能を習得する。 (多職種連携、地域の関係機関との連携、個別支援)	奥田
	実習 (4学年前期) (医療機関) (鈴木グループ)	基本的知識、実践技術・技能を習得する。 (多職種連携、地域の関係機関との連携、個別支援)	鈴木 向谷地

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実習施設からの評価表を基にした実習評価40%、実習報告書30%、実習日誌30%
各評価については科目担当教員で協議のうえ評価する。

【教科書】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【備考】

実習期間中に担当教員による巡回訪問指導および帰校日指導を行う。
この科目は、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク実習」に該当する。
この科目を履修する者は、合わせて「精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導 および 」の履修も必要となるため、履修漏れに気を付けること。

【学修の準備】

予習は翌日の実習で行うプログラム等を確認し疑問点などを明確にしておくこと(2時間)。
復習は実習で行ったプログラム内容について振り返り、理解を深めること(2時間)。
実習日誌、プロセスレコードの記録をつけること。実習指導者からの課題、疑問点について調べること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
DP1 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
DP4 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
DP5 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実務経験】

橋本菊次郎(精神保健福祉士)、奥田かおり(ソーシャルワーカー)、鈴木和(精神保健福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。